

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期（施設）	1年	2単位	保育士：必修
担当教員			
花城暢一 澤田須賀子 吉田美恵子 戸田恵理子 大橋和博 藤野 正和			

講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉施設の内容、機能などを実践現場で体験を通して理解する。</li> <li>2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。</li> <li>3. 子どもに直接に関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深めることができる。</li> <li>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解する。</li> </ol>
授業計画	
授業形態	<p>実践実習 実習計画と学習内容 ＜福祉施設等での実習＞（1日8時間以上×10日間） （内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設の役割と機能について学ぶ。</li> <li>2. 観察や記録を通し子どもを理解し、個々の状態に応じた援助やかかわりを学ぶ。</li> <li>3. 養護内容や生活環境について学ぶ。</li> <li>4. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。</li> <li>5. 職員間の役割とチームワークについて理解する。</li> <li>6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。</li> <li>7. 安全及び疾病予防への配慮について理解する。</li> <li>8. 専門職として保育士の役割と職業倫理について学ぶ。</li> </ol>
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>本学保育学科（保育士養成課程）で習得した教科全体の知識や技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理念と実践の関係について習熟させることを目的とする。</p> <p>保育所実習（50％）・施設実習（50％）を総合評価しておこなう。</p> <p>実習中の服务内容（20％） 実習日誌（30％） 実習施設からの評価（40％） 巡回訪問指導（10％）</p>
教科書・参考書	
履修条件	<p>オリエンテーションを事前におこない、実習生カードの提出や必要であれば車両通勤許可を得て、オリエンテーション報告書を学校に提出し、持参する必要書類（腸内検査等含む）を揃え、実習遵守事項を確認の上捺印し本実習にのぞむ。</p>
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	保育士：必修
担当教員			
吉田 美恵子・戸田 恵理子			
講義概要	保育所・認定こども園の生活を知り、乳幼児への理解を深め、保育所の機能・保育士の職務について学ぶ 既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につける 子どもに直接関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深める 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解する		
授業計画			
授業形態	実践実習 (内容) 1 保育所・認定こども園の役割と機能について学ぶ 2 観察や記録を通し子どもを理解し、適切な援助や関わりを学ぶ 3 発達過程に応じた保育内容・保育環境について理解する 4 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術の習得をする 5 保育計画立案、反省、改善ができる 6 保育所・認定こども園と家庭・地域社会との連携を理解する 7 安全及び疾病予防への配慮について理解する 8 専門職としての保育士の役割と職業倫理について学ぶ		
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につける 子どもに対する理解を通じて保育の理念と実践の関係について習熟する 保育士としての自覚や目標を持ち自己課題を明確にする 子どもの発達や年齢による対応の仕方がわかり子どもの行動の予測ができる 社会人として保育者としての役割や職業倫理について意識を高め実践する		
教科書・参考書	辞書・保育所保育指針必携		
履修条件			
履修上の注意	実習順守事項を随時確認		
オフィスアワー	実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する		
備考・メッセージ			